

# オープンガバメントを目指し、先進的なデータ活用に ArcGISプラットフォームを利用 神戸市 企画調整局

## データとGISの活用による市民サービス向上、業務効率化への取り組み

ArcGIS を市内データのプラットフォームとして活用する環境を実現  
市内の研修と体制の整備によりデータとGISの活用とオープンデータ化を推進



### ArcGISプラットフォームの特長

- ・全庁的なArcGIS活用と、部署間のGISデータ共有
- ・イベント情報をAPIで取得し、ストーリーマップで公開
- ・市内で蓄積されたデータをオープンデータとして公開



企画調整局ICT創造・事業調整担当  
係長 中川雅也氏、八尾翼氏



### PROFILE

組織名: 兵庫県神戸市 企画調整局  
創造都市推進部  
住所: 〒650-8570  
兵庫県神戸市中央区加納町6-5-1  
問合せ先: ICT創造・事業調整担当  
電話番号: 078-322-6462  
URL: <http://www.city.kobe.lg.jp/>

### 使用製品

ArcGIS Enterprise  
ArcGIS Desktop  
ArcGIS Online

### 課題

- ・業務でのGISやデータの活用
- ・ArcGIS のスキル・知識の向上

### 導入効果

- ・全庁的なデータ共有基盤による業務効率の向上
- ・イベント情報の一元管理による市民向け情報提供の拡充
- ・全庁的なデータ統合を通じて、オープンデータ化を推進

### 概要

神戸市は兵庫県の南東部に位置し、大型船も航行しやすい神戸港を有することから古くから栄え、近代では貿易、鉄鋼、造船などを中心とした産業が発展し、国内で6番目の人口を擁する都市である。また近年では1995年の震災後の鎮魂と追悼を祈念して始まった神戸ルミナリエ、摩耶山栴星台から望む日本三大夜景をはじめ、有馬温泉、異人館街など数多くの観光スポットがあり、観光産業も盛んである。



六甲山から望む神戸市の夜景

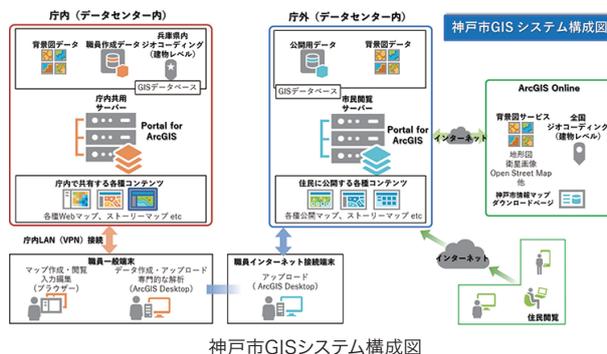
神戸市では、ICTを活用したオープンガバメント社会を構築し、市民サービスの向上、業務効率の向上、地域課題の解決を行っていくため、GISを始めとしたICT環境の整備やそれ

を活用する人材の育成に取り組み、市内でのGISやデータの活用に取り組んでいる。

### 課題

神戸市では、市民サービスの向上、業務効率化、地域課題の解決に向け、ICTを活用したオープンガバメント社会の構築に取り組んでおり、2014年にはオープンガバメントの研究グループが立ち上がり、2015年にはデータ・ICT活用やオープンデータ推進に取り組む部署として企画調整局内にICT創造担当が設置され、ICTを活用したまちづくりを推進している。ICTの活用のためには、これまで以上に職員がGISやデータを業務で効率的に活用できるような環境とスキル・知識を向上させる必要があった。また、オープンデータの取り組みとして2017年7月に、神戸市のホームページの利用規約を改訂し、神戸市ホームページ上の情報についてオープンデータとして利用できるようにした。

### ArcGISプラットフォームの採用理由



神戸市では以前から個別の業務でGISを利用し、台帳管理を始めとしたさまざまな業務を通じてデータが作られてきた。オープンガバメントに向けた取り組みとして、これらのデータを全庁的に利用でき、さらにそのデータを市民向けに公開する統合的なプラットフォームとし

て、ArcGIS EnterpriseとPortal for ArcGISを新たに導入し、2016年1月に稼働を開始した。

## ■課題解決手法

神戸市は、職員がデータを活用して市民サービスや業務効率の向上、地域課題の解決に取り組む研修として2016年度に「神戸市データアカデミー」を開催した。この研修では、課長級向けセミナーと職員向けワークショップに分け、それぞれの役割に応じたセミナー構成とした。課長級向けセミナーでは、神戸市が目指すオープンガバメントに向け、データ活用の重要性や職務でのオープンデータ活用のポイントと事例を紹介し、データ活用の意義を伝える内容とした。職員向けワークショップでは、各部署が抱える課題に対してGISやデータ活用による解決を実践的に学ぶ内容とした。ワークショップの題材としてGISを活用したものを紹介する。

### 1) 翌年度の学童保育利用者の可視化

子ども青少年課では、毎年小学校の学童保育利用者数を実際の入所申請により初めて把握していたため、準備が後手に回っていた。年齢別人口データと学区データを重ねて可視化することで、学区毎に翌年度の学童保育利用者の予測に役立てようとした。

### 2) バリアフリー情報の可視化

神戸市北区にある総合福祉ゾーン「しあわせの村」では、高齢者や障害者も楽しめる施設もあることから敷地内の歩道に傾斜角度と階段の位置を記したマップを作成した。このマップはアプリとして提供されており、車椅子で移動する際に目的地まで傾斜や階段が少ないルートを案内することができる。



歩道の種別を可視化 「傾斜角度」と「階段」の位置を可視化  
傾斜・階段情報付きの歩道マップ

### 3) 不動産価値審査の業務フローの検討

管財課では市内にある不動産価値の審査に必要な資料として、路線価・基準地価を地図とともに提出してもらっていたが、ArcGIS上に路線価・基準地価を予め用意し、各部署と共有することで、大幅に業務フローを改善することができることがわかった。

神戸市データアカデミーの取り組みを通じて、GISやデータの活用に関心する部署や職員を発掘でき、GISに関する知識の向上につながった。一方で、ArcGISの操作や機能面で職員だけでは手に負えず外部の支援が必要となることや、業務によってはGISやデータの活用に至らないものがあることもわかった。

2017年度からは、GISやデータ活用を業務として職員自ら取り組んでもらうため、新たに課長級をメンバーとする「GIS部会」が組織された。GIS部会は、GISやデータの活用を個人ではなく組織として取り組むようはたらきかけている。さらに、実務担当者をメンバーとするGISアカデミーは、普段の業務で使えるGISを目指し、活用事例・相談事例の共有、操作研修、ワークショップなどを行っている。

## ■効果

### ・イベント情報の管理業務効率化と活用

広報紙にイベント情報を掲載するには、以前は各課から所定のWordファイルで入稿された情報を広報課の職員が紙面に入力していたが、データを活用しやすくするため、Webフォームを通じて行うようにしたことで、データベースでイベント情報を管理できるようになった。またイベント情報は、他のアプリでも参照できるようAPIが提供されている。イベント情報のデータベースが作られたことで、紙面では紹介しきれなかったイベントや、位置情報や写真などの追加情報をイベント情報サイト「KOBE Today」に掲載し、市民に最新で詳細な情報を届けることが

できるようになった。さらに、イベント情報のAPIとArcGIS Onlineを連携させ、ストーリーマップとして最新のイベント情報を地図上で紹介している「KOBE Today MAP」を開発した。このようにGISやデータの活用に取り組むことで、業務フローが改善され、市民向けの情報公開の質が向上するような事例が庁内で出てきている。



イベント紹介のストーリーマップ

### ・オープンデータへの取り組み

事業や業務で蓄積されたデータをオープン化し、外部と連携することで、さらなるデータ活用に向けた取り組みを始めている。例えば、神戸市内を走るバスの現在地やアクセル・ブレーキを示す加速度付きのデータ、市内の用途地域や都市計画道路の整備状況などの都市計画情報、市内の観光スポット、保育所の年齢別空き状況の情報を始めとした様々な業務の情報をオープンデータとするための整備を進めている。

## ■今後の展望

現在取り組んでいる庁内のデータ共有プラットフォームをさらに活用し、多くの業務において政策決定に使えるデータ・マップを充実させていくためにも、今後も人材育成、組織・体制、ICT環境整備の支援をしていく予定である。

その先には、神戸市のオープンガバメントに向けた取り組みを通じて、市民との新しい対話の手段を実現し、市民サービスの向上を目指していきたいと語って頂いた。